

資料番号	1
------	---

令和4年1月19日
課名 農林水産局農林水産総務課
担当者 課長 和久井
内線 3522

令和2年農業産出額（広島県）について

1 要旨・目的

令和2年農業産出額（都道府県別）における広島県の概要を報告する。

2 現状・背景

農林水産省は、毎年、全国及び都道府県別の農業産出額を調査、公表しており、令和3年12月24日に令和2年の農業産出額を公表した。

3 概要

(1) 調査対象

—

(2) 調査期間

令和2年1月から令和2年12月までの1年間。

(3) 調査結果の総括

平成22年（2010年）に策定した「2020 広島県農林水産業チャレンジプラン」に基づき施策を展開した結果、農業産出額は平成22年の1,021億円から、10年後の令和2年（2020年）には目標値の1,200億円に対して1,190億円となった。

特に、野菜・果樹等の園芸品目については、水稻からの転換を進めるとともに、大規模農業団地の整備等を行い、経営発展意欲のある農業者への農地集積や生産性の向上を支援したことにより、野菜産出額は、平成22年の187億円から247億円（60億円増）、果実産出額は、平成22年の139億円から168億円（29億円増）となった。

また、畜産については、意欲ある畜産業者及び企業経営体の規模拡大や生産性向上のための施設整備等を支援したことにより、畜産産出額は平成22年の395億円から487億円（92億円増）となった。

(4) 前年度との比較

ア 全体

広島県の令和2年農業産出額は、肉用牛等において新型コロナウイルス感染症拡大の影響により価格が低下した一方で、野菜等においては巣ごもり需要により価格が上昇したこと等から、1,190億円となり、前年（1,168億円）と比較して22億円の増加となった。

イ 分野別

(7) 米

水稻の栽培面積の減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、業務用米の需要減少による民間在庫量の増加により取引価格が低下するとともに、トビイロウンカの発生により生産量が減少したことなどから、前年（247億円）と比較して11億円減少し、236億円となった。

(4) 野菜

新型コロナウイルス感染症の影響による巣ごもり需要により、家庭内消費が増加し、価格は高値で推移したことなどから、前年（236億円）と比較して11億円増加し、247億円となった。

(ウ) 果実

みかんの栽培面積の減少に加え、令和2年は裏年であったため、生産量が前年を下回ったことなどから、果実産出額は、前年（172億円）と比較して4億円減少し、168億円となった。

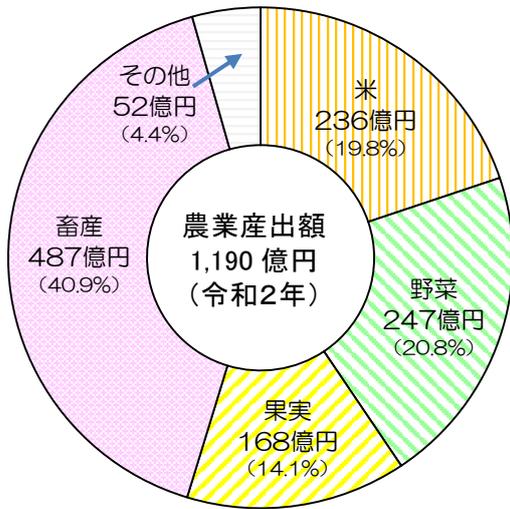
(エ) 畜産物

肉用牛については、新型コロナウイルス感染症による需要減退により価格が低迷した。一方、豚・鶏卵は、巣ごもり需要から家庭向け消費が増加し、豚は価格が高値で推移し、鶏卵は、12月に本県において高病原性鳥インフルエンザが発生したものの影響は限定的であり、全体としては生産量が増加した。

こうしたことから、畜産産出額は前年（467億円）と比較して20億円増加し、487億円となった。

(参考)

【農業産出額内訳】



【品目別産出額上位10品目】

	品目	産出額	(参考) 令和元年
1位	米	236億円	247億円 (1位)
2位	鶏卵	229億円	215億円 (2位)
3位	豚	94億円	89億円 (3位)
4位	肉用牛	70億円	71億円 (4位)
5位	生乳	55億円	54億円 (5位)
6位	みかん	46億円	51億円 (6位)
7位	トマト	39億円	36億円 (7位)
8位	ねぎ	38億円	36億円 (8位)
9位	ぶどう	34億円	30億円 (9位)
10位	ほうれんそう	20億円	20億円 (10位)

【農業産出額の推移】

